

スマ農とガチ棚

論説委員長 勝沼直子

日々小論

先月に続き、新潟のコメづくり最前線を訪ねる旅の報告を。新潟県村上市で、農機販売の新潟クボタ（新潟市）が整備したスマート農業の拠点施設を視察した。一人で2台同時に操作できるロボット農機、ドローンによる無駄のない肥料・農薬散布と生育データの収集、きめ細かく堆肥量を調整できるセンサー付き田植え機などの実演が見られる。同社は人工知能（AI）と通信技術を組み合わせ、担い手不足と農地集約化への対応といった課題の解決を目指す。

ロボット農機の一つに試乗した。地上にいるオペレーターのリモコン操作でずんずん田んぼを進む。高い操縦席から見渡せば稲刈りを終えた田園風景が広がる。最先端のスマート農機が力を発揮するのは大規模化された農地あってこそ。そう実感させられる光景だった。

一方、新潟県が今年から呼び

かけを始めたのが「ガチ棚」だ。新潟は棚田面積と農林水産省認定の「つなぐ棚田遺産」の数が全国最多の「日本一の棚田県」を宣言している。棚田保全活動の一環として、草刈りなどの重労働を本気（ガチ）で担うボランティアをこう名付けた。

里山の斜面に点在する棚田は狭くいびつで足場も悪く、夏の草刈りは田植えや稲刈り以上の体力勝負。それでも「もっとハードな農作業を手伝いたい」との声に応えて募集したところ、県内外から計34人が集まった。

人手不足の解消にはまだ遠いが、大変さを体感してもらうことで棚田に心を寄せる人を全国で増やす試みだ。参加者の満足度は高く、県は来年度、受け入れ先を広げて募集するという。

スマ農とガチ棚。アプローチは対極でも、コメづくりの未来を守ろうとする本気の挑戦であることに変わりはない。

左の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

1 スマート農機について、具体的に説明しているところを、本文中から75字以内で抜き出し、最初と最後の3文字を書きましょう。

			～			
--	--	--	---	--	--	--

2 スマート農機が力を発揮するのは、どんな場所ですか。本文中から10字以内で抜き出しましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

3 ガチ棚とは何のことですか。本文中から1文で抜き出し、最初の3文字を書きましょう。

--	--	--

4 「ガチ棚」の目的は何ですか。本文中から30字以内で抜き出し、最初と最後の3文字を解答欄に合わせて書きましょう。

			～				ため。
--	--	--	---	--	--	--	-----

NIEワークシートのこたえ（2025年12月5日公開）

◆ワークシート「スマート農業と棚田(社会)」
2025.12.3付 朝刊 11面 解答

- 1 一人で ～ 植え機
- 2 大規模化された農地
- 3 棚田保
- 4 大変さ ～ 増やす ため。